2009 Kumamoto S.J.C.D. Inservice Training Seminar

安全な日常臨床のためのレシピ

～シングルユニットの治療を中心として～

西川義昌D.D.S.

歯科治療の目的は機能回復率の向上と残存組織の保全の両立であるということは論を待たないと思います。回復するべき機能には咀嚼、嚥下、発音、呼吸、感覚、審美、姿勢維持などがあります。

我々はこれまでの歯科治療においておもに機能の回復に取り組んできたように感じます。特に昨今の審美への傾倒ぶりは目ざましいものがあると思います。しかしもう一つの目的である残存組織の保全に対して我々はこれをどう捉えどう対処してきたのでしょうか？

何かそれに対して打つ手を行ってきたのか、とても疑問に思うのです。

例えば審美的な前歯部のクラウンをいれて数年も経たないうちに破折を起こしたり、顎に異常音が生じたり歯の動揺をきたしたりしているケースをよく見かけます。これでは歯科の目的は達成されているとはいえないと思うのです。

小さな治療一つ一つの中身をとっても同様なことが起こっています。審美を強調するあまりハーフポンティックと称しブラックトライアングルを防止して審美回復に努めるのはよいのだが、結果として歯肉周辺の炎症を惹起しますし、臼歯においては形成の基準を遵守しないがゆえに頬舌径の大きなクラウンが装着されています。またオールセラミックに必要な削除を行い短くなった歯冠長は応力の集中を招く恐れがあり修復物の破折につながっていますし、舌面まで考慮した審美は自然頭位での早期接触をおこす危険性があり、結果として顎関節に過大なメカニカルストレスをかけるかもしれないのです。

しっかりとした基準のない支台歯形成はその後に装着されるクラウンの形態を規定するがゆえに機能的な満足も組織の保全も得られないのです。

機能回復と残存組織の保全を両立できる基準が作れればそれは安全な日常臨床のレシピとなるに違いないと思います。それには大きく分けて二つあると思うのです。

一つは正確な診査、診断を行うこと、もう一つは適切な治療の基準に則って熟達した技術を持つことであると考えます。

一方、歯科治療の８０％はシングルユニットであると言われています。この８０％を占めるシングルユニットの治療を正しく行えば再治療に至るケースは減ってゆくと思われるのです。

以上のようなことを踏まえ安全な日常臨床のレシピとして次のようなことについてお話をさせていただこうと思います。

- **補綴装置内部構造としての支台歯が有するべき形態とその形成基準**
- **プロビジョナルレストレーションのリマージニング**
- **審美的なコンポジットレジン修復法**
- **適切な診査、診断の基準とは何か？**

講師：西　川　義　昌　先生

日時：2009年1月18日(日)09:30～16:00

会場：熊本県歯科医師会館 ホール

熊本市坪井2丁目4番15号　TEL 096-343-8020

定員 100名

費用：

会員歯科医師	5,000円
会員歯科医師以外	3,000円
会員外歯科医師	8,000円
会員外歯科医師以外	5,000円

申込：熊本S.J.C.D.事務局　(有限会社アワデント内)

〒862-0933　熊本市小峯1丁目1-95
096-331-0567(fax096-331-0577)
taka@ourdent.com　粟津貴昭

（　略　歴　）

1949年　大阪府生まれ
1974年　大阪歯科大学卒業
1974年　原宿デンタルオフィス勤務
1995年　甑島中央診療所勤務(鹿児島県)
2000年　現診療所を開設(東京都渋谷区)
現在　東京SJCD会員・NMG代表
日本臨床補綴学会前会長・**熊本SJCD顧問**

（　論　文　）2007年以降

■歯科技工「**Biological Crown Contour～生体に調和する歯冠形態**」
2008年9月　井出吉信・桑田正博ほかと

■歯界展望「**基本歯冠修復としての直接・接着性レジン修復法**」
2008年7月 小野寺保夫・児玉・坂元一貴・茆原・大西・中崎裕と

■QDT「1本の歯にこだわる　再治療歯の支台歯形成から Part2」
2007年12月　大西一男・茆原かおり・児玉敏郎・崎田竜仁と

■QDT「1本の歯にこだわる　再治療歯の支台歯形成から Part1」
2007年11月　大西一男・茆原かおり・児玉敏郎・崎田竜仁と

■ザ・クインテッセンス「新・症例プレイバック」 2007年9月

勤務先・連絡先	区分	DR	他	参加代表者名	合計額
〒	会員	人	人		
TEL/FAX e-mail	非会員	人	人		円

FAX 096-331-0577　振込先：肥後銀行佐土原支店普通１４５１２６　熊本SJCD事務局　粟津貴昭